

歌が生まれる

校歌制作レポート 第11回



イラスト：山崎奈緒

中間部をどうするか？

前回レポートの最後にお示しした中間部Bの歌詞案

～響き合う夢は 若き季節の 笑い・躓き・迷う日の 道標～

これは学生の姿パッチワーク（第6回参照）にあった、元気で笑顔で／個性豊かな仲間と／手を取り／語り合い／励み合い／心を通わせ夢を抱き／夢を育み／夢を叶え から赤字部分とその他重複応募のあった「響く」を加えて「響き合う夢」に、また、これも複数寄せられた「若い」「若人」「季節」「四季」を、青春期を人生の中のひとつの季節として「若き季節」にまとめ、非常に多くの重複があった「笑い」「笑顔」や「光を胸に影を踏み越え」「また笑って立てばいい」「迷いの数だけ強くなれ」など、挫折の克服や葛藤のイメージを合わせて「笑い・躓き・迷う」に、さらに、「未来への燈火」「光を胸に影を踏み越え」といった語句から喚起されるイメージを、これもまた公募語にあった「道標」の一語に託し、～それぞれの夢（視線の先にある光）に導かれながら互いに影響し合いつつ苦楽を共にして生きる青春期の姿～ という内容を描いたつもりです。ふう😓 長ああああ一文で失礼しました。

さて、これをどう歌うか？ 試しにやってみましょう。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 9月1日 レポート

調構成のアイデア

少し専門的な話になりますが、しばらくお付き合いください。

この歌は変イ長調(この歌の「主調」です)にはじまり、第一部分**A**の最後「未だ見ぬ明日を問う」で変ホ長調という調に向かって開きます。「調」には「五度圏」という順列のようなものがあるのですが、変ホ長調は変イ長調から見ると、五度圏において一段階上にあります。ですから、中間部**B**を前からの流れのまま変ホ長調とすると、最終部分**C**で主調(変イ長調)に復帰するためにはぴょんと一段飛び降りるだけでよく、とても容易なのですが、それだけにドラマティックな展開にはなりにくい。そこで、**B**は変ホ長調を取らず、五度圏において変イ長調の二段階下の変ト長調としてみます。そうすると、**A**末尾から**B**への移行に意外性が生じることで鮮明な場面転換となり、主調の復帰に向かう**B**は「よじ登る」エネルギーを必要とし、かつ、変ホ長調からの復帰に比べて、より遠くから同時間内に戻らざるを得ないために和声的な展開密度が高くなるので、**B**を、歌詞内容にふさわしい陰影をもった一場面とすることができそうだと考えたからです。

…ということで、**B**から**C**(主調=テーマの復帰)のはじめまでを次のように作ってみました。

A: 変イ長調 **変ホ長調** に向かって開くが **B: 変ト長調**
冒頭~5小節 省略 意外性のある移行

まだ み ぬ あ す を と う ひ び き あ う ゆ

..... ここまでは大らかに広々と 主調復帰へ向けてよじ登り.....

め は わ か き き せ つ の ー わ ら い つ ま づ き ま よ う

..... **C: 変イ長調 & テーマ復帰**

ひ の み ち し る べ **「ドミレラ=UEDA」**



さて、もう一息、「主人公」は社会とどう向き合い、社会の中でどう在ろうとするか、それを**C**で描いて締めくくろうと思います。ただし、ああしろ・こうしろ・そう在れ...ではなく、主人公自らの言葉で歌えるように。

どうしましょうか？ しばらく考えさせてください。それではまた。